MORGAUA QUARTET

モルゴーア・クアルテット

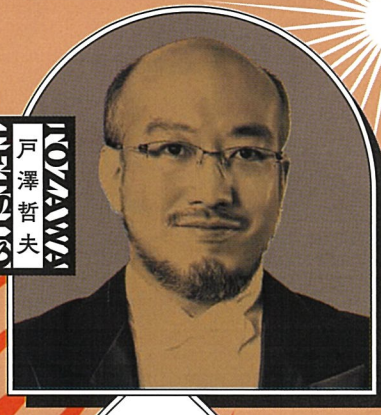
演奏活動30周年

Vol. 4

あなたに、いつものモルゴーア。

ARAI EIJI 荒井英治

FUJIMORI RYOICHI 藤森亮一



TOZAWA TETSUO 戸澤哲夫

ONO TOMIO 小野富士

◆指定席（限定34席）4500円
◆一般（自由席）4000円
◆学生（自由席）2000円
※指定席はミリオンチケットのみで取り扱い

二〇二四年六月二十四日（月）

19:00開演
（18:30開場）

浜離宮朝日ホール

再演総選挙によるプログラム2

- ヒンデミット：序曲《さまよえるオランダ人》
  下手くそな温泉楽隊が朝7時に噴水の周りに集まって初見で演奏したような、、、。
- ヤナーチェク：弦楽四重奏曲 第2番「内緒の手紙」
- ボロディン：弦楽四重奏曲 第1番 イ長調

※曲目は予定であり、変更の可能性もあります。

チケット販売
朝日ホール・チケットセンター 03-3267-9990
e+イープラス https://eplus.jp
ローソンチケット 0570-000-407
ミリオンチケット 03-3501-5638
※ウェブサイトからのお申込はセブンイレブンでのお引取り

コンサートマネジメント
ミリオンコンサート協会 03-3501-5638

…そして、【演奏活動30周年】の最終回になりました。

目新しい作品に対峙しながらも、愉しみつつ今日まで継続してこられました。

過去につくられた作品は遺物ではありません。ひとりの誠実な生の営みから生み出されたものであればこそ、共感できる瞬間は必ず本番で現れるのではないか、ということも知りました。共感、というのは確証できないものですが、でもそこに、音楽の本質的なものがあるのは論を待たない所でしょう。

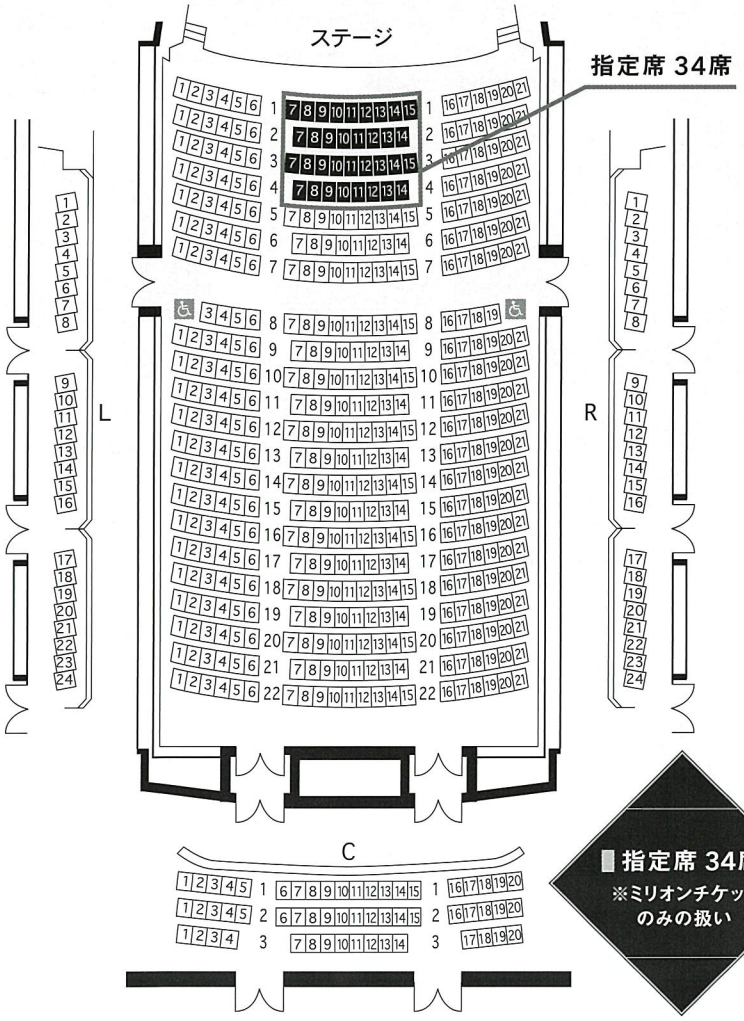
改めて思うのは、著名な作曲家の第一級の傑作だけが大切なのではなく、それぞれの音楽の個性＝味を嗜むことが、(いささか大げさですが)文化を大事にする姿勢に繋がるのではないかと思うのです。日常において、とかくランク付けしたりカテゴライズすることをしがちな私たちですが、それこそモルゴーアはそれらとは断絶して、いろいろな音楽を雑食することでたくましく生き延びてきたのかもしれません。

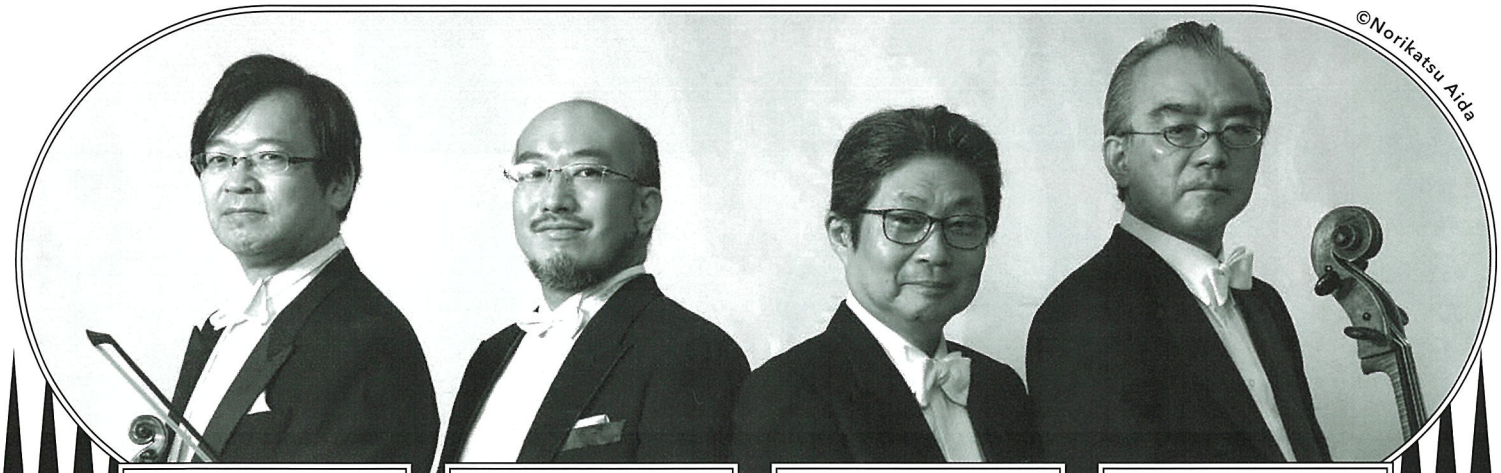
今回の2年にわたる30年記念公演シリーズの最終回を迎えるにあたって熱烈な[モルゴーリアン]の皆様に心から感謝をいたします。

そしてこれからの活動ですが、長期プランを立てるのは苦手です。言ってみれば、その日暮らし的なやり方が一番似合っていると思っています。で、定期演奏会で有名曲は可能な限り排除する！という看板もとりあえず外すのも良いかもしれません。そこには逆の差別意識が潜んでいない、とも言えないからです。

…というようなことです。高齢化が進む我が国において、【クラシック界のロック(はみ出し)野郎】の代表として、その元気をお届けすることを誓います。

荒井英治





第1ヴァイオリン
荒井英治
(あらい えいじ)
元東京フィルハーモニー交響楽団
ソロコンサートマスター

第2ヴァイオリン
戸澤哲夫
(とざわ てつお)
東京シティ・フィルハーモニック
管弦楽団コンサートマスター

ヴィオラ
小野富士
(おのふじ)
元NHK交響楽団
次席ヴィオラ奏者

チェロ
藤森亮一
(ふじもり りょういち)
NHK交響楽団
首席チェロ奏者

MORGAUA QUARTET(モルゴーア・クァルテット)はショスタコーヴィチの残した15曲の弦楽四重奏曲を演奏するため1992年秋に結成された弦楽四重奏団。翌'93年6月に第1回定期演奏会を開始。2001年1月の第14回定期演奏会でショスタコーヴィチの残した弦楽四重奏曲全15曲を完奏。同年4月、第2ヴァイオリンを青木高志から戸澤哲夫に交代。ショスタコーヴィチ没後40年(2015)から生誕110年(2016)をつなぐ「ショスタコーヴィチ弦楽四重奏曲全15曲演奏会」を'15年大晦日から'16年元旦にかけて「横浜みなとみらい小ホール」で開催。一晩で全曲演奏するという瞠目のプログラムで多くの聴衆を集め、4度目の完奏。'12年6月と'14年5月、そして'17年3月に日本コロムビアからリリースした、荒井英治編曲のプログレッシヴ・ロック・アルバム《21世紀の精神正常者たち》《原子心母の危機》《トリビュートロジー》により、ボーダーレスな弦楽四重奏団としても高い評価を受ける。2017年9月「第47回JXTG音楽賞 洋楽部門本賞」、2018年6月「第28回みんゆう県民大賞 芸術文化賞」などを受賞。モルゴーア・クァルテットの斬新なプログラムと曲の核心に迫る演奏は、常に話題と熱狂を呼んでいる。「モルゴーア」はエスペラント語(morgaŭa＝明日の)に原意を持つ。